

岬柴火 本名 目崎一三

みさき・さいか めさき・いちぞう

詩人

経歴

生:大正13年(1924年)9月29日、広島県深安郡御野(現福山市神辺町御野)生まれ

没:昭和20年(1945年)8月12日、享年21歳

昭和6年(1931年)4月	6歳	広島県深安郡御野尋常小学校入学
昭和12年(1937年)3月	12歳	広島県深安郡御野尋常小学校卒業
昭和12年(1937年)4月	12歳	県立福山誠之館中学校入学
昭和17年(1942年)3月	17歳	県立福山誠之館中学校卒業
昭和17年(1942年)3月	17歳	広島高等学校文科乙類入学、弓道部に入部、薫風寮第六寮に入寮
昭和18年(1943年)4月	18歳	文科系の科目にのみ身を入れたため進級できず
昭和18年(1943年)11月	19歳	薫風寮を退寮
昭和19年(1944年)	19歳	学徒動員により向洋の日本製鋼所で働いていたが、同工場で親指を失う
昭和19年(1944年)	19歳	呉海軍工廠へ
昭和19年(1944年)12月	20歳	入営通知あり、海軍工廠から帰郷
昭和20年(1945年)1月10日	20歳	広島第二部隊現役入営(幹部候補生でなく一兵卒として)
昭和20年(1945年)3月	20歳	在営のまま、広島高校卒業
昭和20年(1945年)4月	20歳	在営のまま、京都帝国大学文学部哲学科社会哲学専攻入学
昭和20年(1945年)8月6日	20歳	広島において被爆
昭和20年(1945年)8月12日	20歳	戦死(原爆による死亡)

生い立ちと学業、業績

ペンネームは、岬柴火 (みさき・さいか)、原二郎。原爆でたおれた郷土の詩人 岬柴火。

大正13年(1924年)9月29日生まれ。

昭和6年(1931年)4月、広島県深安郡御野尋常小学校入学。

昭和12年(1937年)4月、広島県立福山誠之館中学校入学。中学時代同人雑誌「ともしび」において、詩、短歌などで活躍。

昭和17年(1942年)3月、広島県立福山誠之館中学校卒業。

昭和17年(1942年)3月、広島高等学校文科乙類入学。高校時代芭蕉の研究に取り組み、俳句会主幹、寮の図書部委員として活躍。 筆名・俳号岬 柴火 (みさき・さいか)。

昭和20年(1945年)1月、旧制広島高等学校から学徒出陣、広島第二部隊入営。

昭和20年(1945年)3月入営のまま、京都帝国大学文学部哲学科社会哲学専攻入学。

昭和20年(1945年)8月12日、広島で原爆の犠牲となる。

中学時代、誠之会が発行する『誠之』などに、既に文集が掲載されるなど令名高い。詩人として、文才、詩才は高く評価されたが、惜しくも原爆で死去した薄倖の詩人。 (出典1)～(出典2)

和歌 「聖代の 初日の光 美しく 戸毎の国旗 輝きにけり」

俳句 「初詣で 人籟絶えし 鎮守かな」 (出典3)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作/発行	日付
00301	岬柴火 著	『岬柴火遺稿集』	目崎包治	昭和22年
02996	岬柴火 著	『今、今ですよ！！ 目崎一三(岬柴火)遺稿詩文集』	目崎一三遺稿集再刊の 会	平成15年

出典1:『岬柴火遺稿集』、河合正美編、目崎包治刊、昭和22年8月4日

出典2:『今、今ですよ！！目崎一三(岬柴火)遺稿詩文集』、目崎一三著、目崎一三遺稿集再刊の会編刊、2003年9月20日

出典3:『誠之(第43号)』、34・69頁、福山誠之館中学校誠友会編刊、昭和13年3月

2004年12月7日更新:本文●2005年2月17日更新:経歴・本文●2005年5月26日更新:所蔵本●2005年7月15日更新:本文●2006年3月2日更新:経歴・本文(深安郡→福山市)●2006年6月13日更新:タイトル●